

雲海テラスを訪れる5万人のお客さまに自然を伝えたツール開発：雲海カード

北海道大学大学院 環境科学院

環境起学専攻 実践環境科学コース

古川 雄大

北海道占冠村星野リゾート・トマムにある雲海テラスは、雲海の風景が観光客に人気を呼んでおり、全国から約11万人の観光客が訪れる。また、トマム山で観測される雲海には放射霧による雲海と移流霧による雲海の2つのパターンがあることが明らかにされている(中村ら, 2011)。雲海テラスでは、調査で得られた知見を活かし、「雲の学校」の実施や雲海ハンドブックの作成とそれを使用した雲海仙人ガイドなどの活動が行われてきた。本研究では、これらの経験を踏まえて、より多くの人を対象として自然を伝えるツールとして「雲海カード」を開発した。

雲海カードは、雲海やトマムの自然などのテーマを包括的に示し、今見ている景色とは違う景色を知ってその瞬間をさらに楽しんだりすることで、自然への想像力を張り巡らせてもらうことなどに意義を持つ。そのような意義や目的を踏まえ、雲海カードは、まず雲海やトマムの自然について一般的な知見や現場の知見に基づいて作成し、その上で観光客やスタッフに聞き取り調査を行い、ニーズや評価を確かめて改良するというサイクルで質の高い説明ツールの開発を目指した。

雲海カードの内容は、例えば「今日はどの雲海が見えましたか？」というカードは、雲海には様々なパターンがあることを示し、その時とは違う状況を想像してもらうことを目的に作成した。その目的を踏まえ、トマムで発生する様々な雲海の状況を、雲中時なども含め写真と頻度で示し、昨年度の雲海発生状況を知ってもらうために、カレンダー形式で雲海の出現表を示した。このような流れで、第1版、第2版と改良を重ね、最終的に「雲海の種類やメカニズムに関する項目」、「トマムの自然に関する項目」など合計28種類、全40ページの雲海カードを作成した。作成した雲海カードは、筆者が雲海テラスに滞在していない時でもスタッフにより設置されるようになったという結果を得ている。

次に、カードの説明についてわかってもらえたか、改善点や知りたい点などの意見はないかを確認するために聞き取り調査を実施した。聞き取りは、雲海カードの第2版作成前は145組、作成後は48組に対し実施した。その結果、全体として「わかりやすい・面白い」という意見が多く、その理由として「写真と文章のバランスがよい」や「雲海だけではなく様々な情報が載っている」ことなどが述べられた。また、第2版作成後では「雲海に種類があること」や「季節の変化」などの知識が得られたという意見が多かった。さらに、改善点やより知りたい点について得られた意見を反映し、雲海テラスの歴史を紹介するカードや写真の撮り方を説明するカードを作成した。

さらに、2013年の雲海テラスオープン期間のうち11日間をかけて大規模アンケートを実施し、合計2689組のアンケートを回収した。その結果、観光客約11万人中、雲海カードをじっくり見たのが約5千人、さらっと見たのが約5万人となった。また、雲海テラスの滞在時間とカードを見る人との関係を見ると、滞在時間が長くなるほど雲海カードを見る人の割合は多くなることがわかった。